

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 9 月 18 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	36.1	106.2 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	48.1	8.44 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.5 m ³ /h	50.6	0.19 kPa g	A系： 0.25 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.24 vol%

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

注水量の継続監視を行っていたが、各号機で流量の低下が見られたため、以下のとおり注水量の調整を実施。なお、各号機の必要注水量(1号機が 3.8m³/h、2号機が 5.4m³/h、3号機が 5.4m³/h)は確保されている。

【1号機】・9/15 0:58 給水系からの注水量を約 2.6m³/h から約 2.9m³/h に調整(炉心スプレイ系からの注水量は約 1.9m³/h で継続中)。

6:58 給水系からの注水量を約 2.4m³/h から約 3.0m³/h に、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.8m³/h から 2.0m³/h に調整。

・9/16 14:32 給水系からの注水量を約 2.7m³/h から約 3.0m³/h に、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9m³/h から 2.0m³/h に調整。

【2号機】・9/15 15:29 給水系からの注水量を約 1.8m³/h から約 2.0m³/h に、炉心スプレイ系からの注水量を約 5.1m³/h から 5.0m³/h に調整。

【3号機】・9/15 15:29 給水系からの注水量を約 2.1m³/h から約 2.5m³/h に、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.6m³/h から 4.5m³/h に調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	32.5
2号機	循環冷却システム	運転中	31.8
3号機	循環冷却システム	運転中	30.2
4号機	循環冷却システム	運転中	38

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	9/14 10:29 ~ 9/17 10:16 移送実施
4号機	4号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	9/14 10:45 ~ 9/18 9:49 移送実施
	4号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	9/18 10:01 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	→ 仮設タンク	9/18 10:00 ~ 15:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (9/18 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/9/15 9:42 頃 パトロールを実施していた当社社員が、淡水化装置(逆浸透膜式)3のスキッド3内の高圧ポンプ出口側ねじ込み部から水が漏れていることを発見し、同装置のスキッド3を手動で停止。
- 11:15 漏えいが停止したことを確認。漏えいの範囲は7m×7m×5mm(最深部)、漏れた水は淡水化装置処理前の水で、表面線量率はガンマ線が 0.07mSv/h、ベータ線が 1.33mSv/h。なお、漏れた水は堰内に留まっており、系外への流出はない。漏えい水の核種分析を行った結果、ヨウ素 131 が検出限界値未満(検出限界値: $2.0 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$)、セシウム 134 が $1.0 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137 が $2.1 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、全ベータ放射能が $2.7 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 。また、その後現場を確認したところ、漏えい箇所から 10 秒に1滴程度の水の滴下を確認したことから、当該漏えい箇所にビニール養生による漏えい拡大防止処置を実施。
- 16:00 当該漏えい箇所は弁により隔離しているが、同装置のスキッド3およびスキッド4は配管がつながっており、同装置のスキッド4が運転していることで、当該漏えい箇所への流入が考えられるため、同装置のスキッド4を停止。その後、漏えいの停止を確認。
- 9/16 8:40 淡水化装置(逆浸透膜式)2のスキッド4を起動。
- 8:45 淡水化装置(逆浸透膜式)2のスキッド5を起動。今後も淡水化装置(逆浸透膜式)については、水バランスを考慮し断続運転を実施。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上